

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2009.03) 9巻1号:97.

学会の動向  
第23回日本乾癬学会学術大会を終えて

飯塚 一

## 学界の動向

# 第23回日本乾癬学会学術大会を終えて

飯 塚 一\*

去る9月5日、6日の両日、旭川グランドホテルにおいて第23回日本乾癬学会が開催されました。好天にも恵まれ、全国から多数の会員にお集まりいただき、参加者数は400人を突破しました。学会の後は、引き続き全国各地の患者会である乾癬の会も開かれ、活発な討論となりました。

慢性難治性皮膚疾患の代表とされる乾癬ですが、アトピー性皮膚炎と比べ、一般の認知度は必ずしも高いとはいえません。現在、わが国には約10万人の患者がいると考えられ、しかも患者数は徐々に増加傾向にあります。増加要因としてメタボリック症候群との関連も示唆されており、今後の検討課題です。

治療面では、この30年の間に、PUVA療法、レチノイド、シクロスポリン内服、活性型ビタミンD3外用薬、narrowband UVB紫外線療法と選択肢は大幅に広がってきています。さらに、近年の抗TNF- $\alpha$ 製剤、また抗IL12,23p40抗体など生物学的製剤の優れた臨床効果は、Th17細胞を主役とするTIP-DC (TNF- $\alpha$ , iNOS-producing-dendritic cell) 学説を産み出し、乾癬の病態理解は、この1-2年で大きな変動期を迎えています。

これは、ちょうど一昔前、シクロスポリンの乾癬に対する劇的な効果が見出され、乾癬のT細胞学説につながった激動期の様相に非常によく似ています。私たちは、ようやく皮膚を場とする乾癬の病態論に、確固とした基盤を得たように思いますし、依然として候補の段階にとどまる乾癬の疾患遺伝子座も、おそらく近い将来、この関連で意義が解明されるものと期待されます。当教室は、初代、大河原 章、北海道大学名誉教授の時代から、乾癬の研究を続けてきており、この機会に、乾癬学会を開催することができたことは大変ありがたいことと関係各位に感謝しています。

一方で、本学会を通じての感想は、わが国における乾癬の治療が、まだまだ満足できるものとはいえないということで、患者QOLを加味した治療法の選択は、乾癬に苦しむ患者さんたちにとって極めて重要な課題であり、乾癬の診療に携わっているわれわれ皮膚科医は、今後も地道な努力が必要でしょう。1992年の本学会を契機に結成され、今や全国規模で広がりつつある「患者の会」の期待にも応えていきたいものです。この分野での多くの発表は、患者さんとともに、治療に携わっている多くの医師の切実な想いが、現われたものと考えられます。

今回の学会では、James Krueger先生 (Rockefeller大学) に乾癬の病因と生物学的製剤についての御講演をいただき、John Koo先生 (UCSF)、Kenneth Gordon先生 (Northwestern大学) に、乾癬治療についての最新の情報を御講演いただきました。お三方とも極めて明快な御講演で聴衆に大きな感銘を与えました。さらに、「乾癬の研究と治療の新展開」と題して近年の急速な研究と治療の進歩を、各分野の第一人者の先生にまとめていただき、また日本発の世界に誇る業績である活性型ビタミンD3については、過去、現在、未来というテーマでシンポジウムも組ませて頂きました。

学会期間中のイブニングトークとしては、旭山動物園、小菅正夫園長先生に御講演をお願いし大変好評でした。学会後、全国的に有名になった旭山動物園を経由して帰られた方も多かったようです。

このように第23回、乾癬学会は盛会裏に終わりましたが、これからも、患者さんの役に立つ乾癬のより良い治療をめざして、教室員一同、病態解明を含め、努力していく所存です。最後に、学会を通じ、いろいろ御配慮いただいた関係各位に深謝申し上げて、御報告とさせていただきます。

\*旭川医科大学 皮膚科学講座